

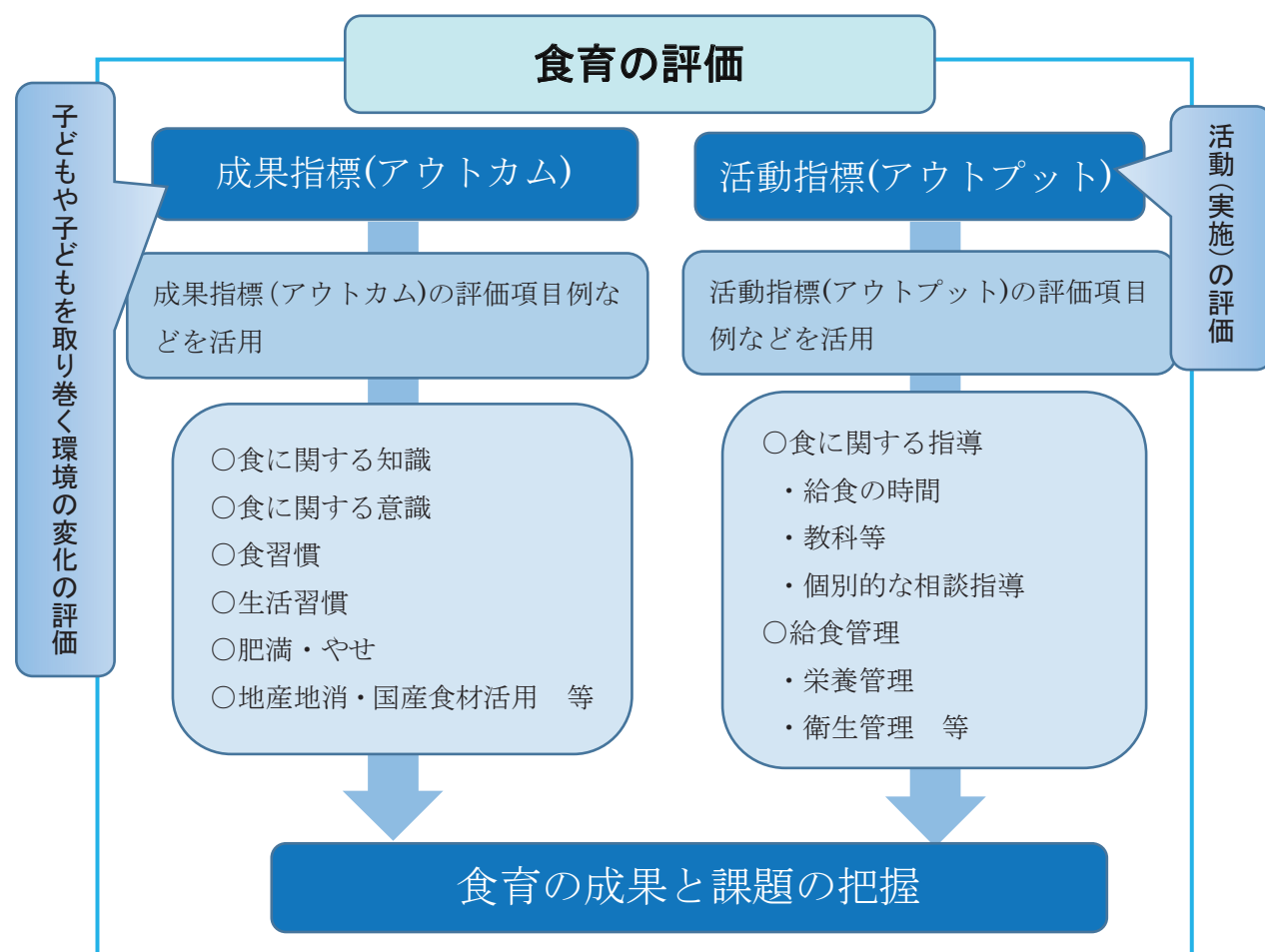
第8章 学校における食育推進の評価・改善

1 評価の基本的な考え方

食育の推進に対する評価は、子どもや子どもを取り巻く環境の変化の評価である「成果指標（アウトカム）」と活動（実施）状況の評価である「活動指標（アウトプット）」に分類できる。

成果指標、活動指標の両方とも次の食育計画の改善に必要であるが、校内、地域、社会に広く食育の推進を理解してもらうためには、成果指標（アウトカム）の評価が必要であり、中でも子どもの食習慣の評価が大切である。

評価には、数値による量的な評価と数値に表すのが難しい質的な評価がある。成果指標（アウトカム）と活動指標（アウトプット）の両方を設定し、総合的な評価につなげる。



〈出典 「食に関する指導の手引—第二次改訂版—」 文部科学省 平成31年3月 P252〉

2 評価の実施方法

(1) 成果指標（アウトカム）の評価

成果指標（アウトカム）の評価では、全体計画の作成時に設定した評価指標の目標値を基準に取組による変化を評価する。例えば、「配膳されたものを残さず食べられた子どもの割合」現状値60% 目標値

70% 実績値75%であれば、1（できた）と評価できる。実績値の評価基準は、あらかじめ食育推進委員会等で決めておく必要がある（例：1：75%以上 2：70～75% 3：70～60% 4：60%以下）。なお、実績値の求め方は、全体計画作成時で行った実態把握の方法と同じ方法で行う。

具体的な成果指標としては、子どもの肥満度などの身体測定結果の変化、体力向上や生活習慣の改善、意識変化などがある。これらの成果指標の評価には、子どもの変化に加え、子どもを取り巻く環境である学校（例：学校給食）や家庭の変化も含まれる。

《成果指標（アウトカム）の評価項目例》【CD19】

各学校等の実情に合わせて、以下の指標の中から必要な項目を選択し、加除修正、または各学校独自の指標を設定する。
また、対象とする学年や様式、評価の方法等についても、適宜、設定する。

成果指標（アウトカム）の例		現状値	目標値	実績値	評価	備考
食に関する知識の習得状況	知識テストや授業等による知識の習得状況など	—	—	—	1 2 3 4	
食に関する意識の改善状況	食育に「関心がある」と回答した割合	%	%	%	1 2 3 4	
	「朝食をとることは大切である」と回答した割合	%	%	%	1 2 3 4	
食習慣の状況 (朝食について見直し週間運動 6月・11月)	朝食摂取率	%	%	%	1 2 3 4	
	朝食に野菜を食べた割合	%	%	%	1 2 3 4	
	朝食に汁物を食べた割合	%	%	%	1 2 3 4	
	朝食と夕食を2人以上で食べた割合	%	%	%	1 2 3 4	
生活習慣の状況	睡眠時間を○時間以上確保できている割合	%	%	%	1 2 3 4	
肥満・やせの状況	肥満度20%以上の出現率	%	%	%	1 2 3 4	
	肥満度－20%以上の出現率	%	%	%	1 2 3 4	
学校給食での栄養摂取状況	配膳されたものを残さず食べられた子どもの割合	%	%	%	1 2 3 4	
疾病（不定愁訴）等の発生状況	病欠者の人数（割合）	%	%	%	1 2 3 4	
地場産物活用状況	地場産物活用率（6月・11月）	%	%	%	1 2 3 4	
給食時の衛生管理の状況	給食前に手洗いをしている児童生徒の割合	%	%	%	1 2 3 4	
(参考) 児童生徒の体力の状況	新体力テストのD・E段階の割合	%	%	%	1 2 3 4	
(参考) 児童生徒の学力の状況	全国学力テストの結果が○%以上の割合	%	%	%	1 2 3 4	

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった

(参考)：間接的ではあるが関連が想定される指標

(2) 活動指標（アウトプット）の評価

活動指標の評価は、学校における食育の取組状況等に対する評価である。これも、全体計画の活動指標にそって行う。評価はその取組に係った実施者による自己評価だけでなく、第三者の視点も交えて複数で行う方が客観的な評価ができる。

《活動指標（アウトプット）の評価項目例》【CD19】

各学校等の実情に合わせて、以下の指標の中から必要な項目を選択、加除修正、または各学校独自の指標を設定する。
また、評価の様式や方法等についても、適宜、設定する。

区 分		評 価 指 標	評価(特記事項)				
食 に 関 す る 指 導	給食の時間における食に関する指導	給食時間を活用した食に関する指導が推進され、機能しているか。	1	2	3	4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できたか。	1	2	3	4	
		<input type="checkbox"/> 学級担任による給食時間における食に関する指導を計画どおり実施できたか。	1	2	3	4	
		<input type="checkbox"/> 手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できたか。	1	2	3	4	
		<input type="checkbox"/> 教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できたか。	1	2	3	4	
		<input type="checkbox"/> 献立を通して、伝統的な食文化や行事食、食品の産地や栄養的な特徴等を計画的に指導できたか。	1	2	3	4	
	食に 関 す る 指 導	教科等における食に関する指導	教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか。	1	2	3	4
			<input type="checkbox"/> 栄養教諭が計画どおりに授業参画できたか。	1	2	3	4
			<input type="checkbox"/> 教科等の目標に準じ授業を行い、評価規準により評価できたか。	1	2	3	4
			<input type="checkbox"/> 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができたか。	1	2	3	4
	個 別 的 な 相 談 指 導	個別 的 な 相 談 指 導	偏食、肥満・やせ、食物アレルギー等に関する個別の相談指導が行われ、機能しているか。	1	2	3	4
			<input type="checkbox"/> 肥満傾向、過度のやせ、偏食傾向等の児童生徒に適切な指導ができたか。	1	2	3	4
			<input type="checkbox"/> 食物アレルギーを有する児童生徒に適切な指導ができたか。	1	2	3	4
			<input type="checkbox"/> 運動部活動などでスポーツをする児童生徒に適切な指導ができたか。	1	2	3	4
			<input type="checkbox"/> 栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医などが連携を図り、指導ができたか。	1	2	3	4
給 食 管 理	栄 養 管 理	「学校給食実施基準」を踏まえた給食が提供されているか。	1	2	3	4	
		<input type="checkbox"/> 「学校給食摂取基準」を踏まえた、栄養管理及び栄養指導ができたか。	1	2	3	4	
		<input type="checkbox"/> 「学校給食摂取基準」及び食品構成等に配慮した献立の作成、献立会議への参画・運営ができたか。	1	2	3	4	
		<input type="checkbox"/> 食事状況調査、嗜好調査、残食量調査等が実施できたか。	1	2	3	4	

区分	評価指標	評価(特記事項)	
給食管理	「学校給食衛生管理基準」を踏まえた衛生管理がなされているか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 衛生管理を徹底し、食中毒の予防に取り組めたか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 調理過程から配膳までの手順や衛生管理を徹底し異物混入を予防できたか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 国や学校等の対応方針に基づき、適切な食物アレルギー対応ができたか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 検食を適切に実施し、記録を残しているか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 保存食を適切に採取・保存し、記録を残しているか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 調理及び配食に関する指導は適切に行うことができたか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 物資選定委員会等出席や食品購入に関する事務を適切に行うことができたか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 産地別使用量の記録や諸帳簿の記入、作成を適切に行うことができたか。	1 2 3 4	
	<input type="checkbox"/> 施設・設備の維持管理を適切に行うことができたか。	1 2 3 4	
連携・調整	食に関する指導	教師同士の連携体制が構築され、食に関する指導が行われているか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は養護教諭、学級担任等と連携して指導ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭を中心として、家庭や地域、生産者等と連携を図った指導ができたか。	1 2 3 4
	給食管理	栄養教諭と教職員の連携のもと給食管理が行われているか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は学級担任・養護教諭等と連携して栄養管理、衛生管理ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は、調理員等と連携して給食管理ができたか。	1 2 3 4
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭を中心として、納入業者や生産者等と連携を図った給食管理ができたか。	1 2 3 4

【評価】 1：できた 2：おおむねできた 3：あまりできなかった 4：できなかった

※学校の実情に応じて段階別評価を行うか否かを検討する。

〈出典「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」文部科学省平成29年3月 P27～29〉

※学校栄養職員の役割は、栄養教諭に準ずる

(3) 評価の進め方

成果指標(アウトカム)
により取組の成果を評価

・「成果指標(アウトカム)の評価項目例」等を適宜活用して、栄養教諭が関係の教職員と連携を図り状況を把握

活動指標(アウトプット)
により取組の状況等を評価

・「活動指標(アウトプット)の評価項目例」等を適宜活用して、全職員を対象にして、取組状況等を把握

食育推進組織において、これらの結果について整理・分析し、食育の成果と課題を明確にしたものを全教職員が職員会議等で共有

3 学校評価との関連

食育の評価を実施する中で把握した食育の成果や課題について教職員が共通理解を図り、「学校評価」を行う際の基礎資料として活用することが可能である。また、「学校評価」の中に「食育」を位置付けることは、食育に対する教職員の認識を高め、保護者や地域との連携を促進するなど、学校における食育の推進につながる。

「学校評価」は学校教育法に基づくもので、教職員が行う「自己評価」、保護者・地域住民などが行う「学校関係者評価」、外部の専門家等が行う「第三者評価」があるが、まずは、「自己評価」（教職員による評価）を基本とし、必要に応じて、「学校関係者評価」や「第三者評価」など保護者、地域の方々、外部の専門家等にも協力を得ながら評価を行う。

なお、学校評価における「自己評価」の結果については、その結果を公表することとなっており、食育の成果等と合わせて、周知・啓発を図ることにより、学校・家庭・地域が連携した取組が推進される。

4 評価（Check）から改善（Act）へ

評価結果を踏まえて、食育推進組織において次年度に向けての改善点を検討する。その際、栄養教諭等は、校長（推進組織の委員長）に客観的な評価資料を示し、具体的な改善点を相談した上で、全教職員で共通理解を図る。また、保護者や地域住民などにも適宜評価結果を公表し、相互理解を深め連携体制を改善・強化するとともに、次年度の計画策定に生かす。

評価結果の考察には、どのような取組を実施した結果なのか、という視点が必要になる。そのために、食に関する指導の報告では、評価の結果を示すだけでなく、指導計画と活動内容も示す。指導計画と活動内容とあわせて評価の結果を読むことで、次年度の指導計画の改善案の提案が可能になるためである。

〈食に関する指導の報告の際に含む内容 例〉

内 容	備 考
I 指導計画の背景と目標 ・食に関する指導目標について、学校教育目標や地域の健康・食育計画等の関連性を含めて、説明する。 ・子どもの実態把握の結果から設定した成果指標及び目標値、活動指標を説明する。	・食育全体計画の「食に関する指導の目標」の背景を説明する。 ・実態把握の結果に基づいた成果指標と目標値を示す。 ・成果目標達成のために設定した活動指標も説明する。
II 活動内容 ・成果指標の目標値の達成に向けて設定した食に関する指導の目標と、行った活動内容を説明する。 ・個々の活動内容の説明には、活動の進行管理状況（経過評価）を含める。	・いつ誰に何をを行ったという視点6W1Hにポイントをおくとまとめやすい。 実施時期や時間等（when）、実施者（who）、対象（whom）、実施場所（when）、指導目標（why）、指導内容（what）、教材・学習形態（how） ・活動が予定通り進んだかを把握するものである。 （例）「〇〇教室」の参加率や成果をもとに考察する。

内 容	備 考
III 評価 ・ I に示した成果指標の目標値の達成度を結果として示す。 ・ I に示した活動指標の結果を説明する。	・最初に示した成果指標・活動指標に対応した形で示す。 ・評価の結果に対し、実施者の意見は入れず、表やグラフを活用して、結果を客観的に示す。
IV 今後の課題 ・ III に示した評価の結果について、考察する。 ・考察を踏まえ、次年度の計画の提案を示す。	・評価に基づき、食に関する指導を全体的に考察する。数値目標が達成できた場合は、どういう活動が達成につながったのかを考察する。そして、次年度に向けて、目標値をあげるか、あるいは他の目標に変えるかの提案を行う。達成できなかった場合は、活動指標の評価や活動途中の進行管理状況を含めて、課題がなかったか、改善する点はないかを振り返り、次年度の指導計画に反映させる。

〈評価の考察を踏まえた指導計画改善の視点〉

〔目標値を達成した場合〕

・新たな評価指標に変更する

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子どもの割合 目標値 85% → 実績値 90%

この結果を受けて、次年度は、「主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べる子どもの割合」を増やすという目標に変更する（現状値を把握する必要がある）。

・目標値をあげる

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子どもの割合 目標値 85% → 実績値 85%

この結果を受けて、次年度は、目標値を90%以上とする。

・評価指標からははずす

例：朝食を「毎日食べる」と回答した子どもの割合 目標値 85% → 実績値 98%

この結果を受けて、次年度の評価指標からははずし、他の評価指標を設定する。ただし、現状維持を確認するため、毎年実態把握は行う。

〔目標値を達成しなかった場合〕

・評価指標を変更する

例：食育に「関心がある」と回答した子どもの割合 目標値 80% → 実績値 75%

食育に「関心がある」の評価は子どもには難しく、食育でも指導の目標にしにくいことから、食に対する意識として、「食事が楽しい」と回答した子どもの割合に評価指標を変更する。

・目標値を下げる

例：食育に「関心がある」と回答した子どもの割合 目標値 100% → 実績値 85%

現状値からは改善されたが、100%は高い目標であった。次年度の目標値を90%に下げる。

※成果指標の目標値を達成しなかった場合は、活動指標の評価とあわせて、全体計画及び各教科等の指導の内容を振り返り、次年度の計画の見直し・改善を行う。